

嵯峨宮頼り

第30号

嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

<http://www17.plala.or.jp/sagagu/>

発行日：2023 年 7 月 10 日

発行：嵯峨宮世話人会



頼り30号を記念して
5年が経過

嵯峨宮頼りも今回で30号を迎えた。五年前の平成三十年、総代が病に倒れ世話人で引き継いで見たものの、地域神社の経営の難しさを感じた。少子高齢化が進みデジタル情報化への急速な変化に遅れがちな山村では尚更だった。そして従前踏襲経営から改革へ、地域神社から開かれた神社へと舵を切った。まずは社殿や階段の修繕を皮切りに御神籤や御朱印、絵馬を手掛け、埋蔵祈願式という新しい祭式を起こした。積極的に情報発信しようとしてホームページを立ち上げネット社会へ対応した。更に嵯峨宮頼り

「嵯峨宮頼り」は嵯峨宮を通じての情報を地域の皆様に提供しています。バックナンバーは首記URLのホームページから見られます。社境内の掲示板でも見られます。御相談は世話人会迄連絡下さい。

を刊行し、神社に関連する情報は言うに及ばず、地域情報も含め隔月で発行する事とした。バックナンバーもホームページから読めるようにした。まだ改革半ばだが、過ぎてみればあつという間、書きたい事も書けない事も沢山あるが、まだまだ頑張つて小平を書き残したいと思う。

ついにアライグマ 小平にも現れる

六月中旬或る日の夕暮

れ、異様な鳴き声が響き渡るので道路に出て見ると一見狸の様な動物が動き回っている。人を恐



アライグマ

れ、異様な鳴き声が響き渡るので道路に出て見ると一見狸の様な動物が動き回っている。人を恐るもせず等距離を保って泣き叫んでいる。よく見れば尻尾が縞模様、狸ではない、アライグマだ。ついに小平にも現れた。今まで狸もアナグマもハクビシンも鳴き声たてて歩く姿など見

たことないから驚いた。

アライグマは北米大陸が原産で日本へは一九七〇年代に多く輸入され、逃亡や放獣で野生化したと言われる外来種である。行動は夜行性、食性は幅広い雑食性で、北米大陸では重要な狩猟対象とされ毛皮は欧州へ輸出されたという。農作物(トウモロコシ、メロン、イチゴ、スイカ等)への被害も大きいようだ。又家屋や神社の屋根裏にも住み着き、繁殖力が強く生態系への影響が強いと言われる。狂犬病等感染症のキャリア動物と言われ、排泄物や汚染された土を素手で触らない事とされている。人を好んで襲うことはないが遭遇して噛まれることや、散歩中にペットの犬や猫が襲われることはあるという。「かわい」と餌付けすることは危険な行為である。アライグマ以外にも小平は動物の宝庫である。そ

	全身	顔	前足 後足
タヌキ			
アナグマ			
ハクビシン			
アライグマ			

の数日前、道を歩いていると空き家からアナグマが出て来て、とぼけた顔で足元まで寄つて来たから持っていた傘でコツンと頭を叩いてやったら慌てて逃げ床下へもぐり込んだ。ハクビシンは畑の野菜を毎夜の如く喰いに出る。猿は二年前に市が大型捕獲器を設置した直後は出なくなつたが今年は元に戻つて親子連れの大群で押し寄せる。花火やパチンコでは逃げない、お手上げ状態だ。すごい時代になつたものだ。

谷田(やっだ)の
「庚申待」と「三峰講」

小平谷田地区の庚申待は昔から続けられていたが、今ある記録は昭和三十六年からの「谷ツ田庚申待控帳」である。口伝によればそれ以前は暫くの間酒が禁止になっていたという。宴席で喧嘩となり殺人事件となった苦い経験があると聞く。控帳によればその当時は谷田地区全戸出席のもと、十一月に寄合いとして開催されていた。宿は持ち回り制で、会費を集めて酒肴を調達、金銭や酒、米、果物等多数の寄付があったと記されている。又新年会の様子も同記録簿に記述されていて、この二つの寄合いが谷田地区の代表的会合になっていた。昭和四十七年から「新年会は公民館」とあり、その後の新年会に関する記述は無い。又「今年度から寄合を廃止し当番の責任に

おいて庚申祭を行うこと」と決めた。尚当番は三峰神社に拝礼し御札を受けてくること。」とあり、三峰代参と

庚申待を併せて班当番で実施する現在の庚申待体制に至ったことがわかる。平成二十一年には戸数も三十数

戸に増え、四班に分けて順に実施していたが、老人家庭や一人家庭の比率が多くなり、宿の世話が困難な状況が発生、平成二十四年以降は小平の里にて実施している。線香は控える等不便もあるが止むを得ない。最近は過疎化が進み軒数減のみならず未加入の家庭も増えたため、地区唯一のコミュニティションの場を維持すべく勧誘して令和元年からは三班体制で

実施している



エンゼルス
ホームラン兜

WB Cでの日本チームの活躍を機に大リーグの試合を時々見るようになった。ホームランを打った選手が勝ち誇ったパフォーマンスを行いチームメイトが祝福する。ロサンゼルス・エンゼルスでは大谷翔平選手のホームランを期待してか、四月から日本の兜を被らせハイタッチで迎えていた。立派な兜である。日本の鹿兒島の丸武産業という甲冑工房が寄贈したという。マルタケ?そう、一昨年嵯峨宮の埋蔵祈願式で使うため、あの中古の鎧兜を購入した工房である。予算が全然足り



りず中古品でもいいからとネットで探し、そして赤の鎧兜があった。映画の撮影に使用していたモノらしい。余り期待していなかったが受け取ったものはずつしりと重く、あちこち曲がったり、塗がはげたり汚れもあったが、しっかりと出来ていていかにも実戦で使われたような風格があった。昔の人はこんな重いモノを付けて戦ったのか、大変だ、やはり平和がいい。

それ以来、大リーグの試合を見るようになり大谷選手のホームランを期待している。

小平の里で
竹灯籠を作る

六月初め、小平の里の「竹灯籠づくり体験講座」があり参加した。指導は地域おこし協力隊員だ。大きき10cm程の孟宗竹の一節か二節を伐り出し、側面にドリルで穴をあけ模様を作る。子供も女性も老人も唯ひたすら無心にドリルを突き刺していく。出来たら竹筒の中に光源を入れる。周りを暗くすると穴を通して光の紋様がボーっと浮かび上がる。穴の数は数百から複雑なもの千を超える。なぜかもう一つ、もつと格好いいモノを作りたいと思うようになる。二つ目は小平の里で灯してくられるという。張り切って複雑な紋様に挑戦した。へとへとになったがさすが大作は違う。外は梅雨空だったが心はずつきり晴天であった。(阿直)

